

東日本大震災 被災地支援活動報告

平成調剤薬局 茜部店

H23/5/26～29、福島市あづま総合運動公園体育館避難所で被災地支援活動を行いました。当時の総避難者数は約 600 人でした。(ピーク時は約 1,400 人の方が避難されていたそう)

○避難所の様子

- ・福島原発避難区域に住んでおられた方が大半
- ・避難所から学校または仕事先へ通われている。
- ・風呂は屋外に設置。タイムテーブルあり。要介護者枠あり。
- ・TV, PC, 電話、有線、iPad、血圧測定、図書コーナーなどが自由に使用可能
- ・日替わりでイベント毎日あり(就職相談会、歯科衛生士による口腔ケア講習会、太極拳、出店、歩け歩け運動、絵画、コンサートなど)

私が行った活動内容は、大きく分けて以下の3つです。

- ① お薬相談、一般用医薬品(OTC)の供給
- ② 日赤チームの診療による災害処方箋の調剤
- ③ トイレ衛生管理

① お薬相談について

- ・体育館1Fにお薬相談コーナーを設け、毎日9:00～17:00相談受付
- ・OTCの種類:胃腸薬・風邪薬・目薬・子供風邪シロップなど約80種あり
- ・品目は基本的に救援物資のため、販売薬、配置薬など様々。期限切迫のものもあり。
- ・相談者から症状を聞き、OTCで対応可能なら相談内容にあった一般用医薬品を供給し服薬説明。OTCで対応不可なら近隣医院または日赤の診療を受診するよう勧告。
- ・名前・被災前の住所・電話番号を記入してもらい、供給した薬品名と数量などを「お薬確認票」に記録
- ・お薬手帳を発行し、譲渡薬・避難所名などを記入→他の避難所等へ行っても服用した薬が分かるように。
- ・在庫が少ない薬は小分けしてお渡し。発注は避難所の災害対策本部に「要望書」を提出。
- ・相談件数は1日20件～30件程度でした
- ・6月以降、あづま総合体育館での相談受付は午後のみとし午前中は他の避難所を巡回する予定。
- ・概ね薬剤師4人体制。日によっては2人～5人の時あり

② 調剤について

- ・日赤災害医療チームが診察→処方せん発行
- ・避難所での日赤チームによる診療は週2回（水・土）14：00～16：30に縮小
（5月中旬までは毎日9～17時診察あり。以後なるべく近隣病院受診するよう勧告）
- ・患者さんが処方せん持参→調剤→薬袋手書き→副作用歴・アレルギー歴・併用薬の有無確認、手帳記入、薬効用法説明しお渡し→「お薬確認票」に処方内容記録
- ・医療用医薬品は内服・外用併せて約300品目あり。救援物資と福島県薬購入分が半々。
全品目のうちGEも1/4程あった
- ・救援物資は大量にあり。リレンザ、リピトール、ノルバスクなど。県薬購入は必要分のみの為、概ね100T単位。在庫少なくなったら県薬に発注
- ・医薬品リストあり、追加等あれば随時更新
- ・粉などのバラ品は会営薬局があらかじめ分包して用意
- ・その他、薬袋・書籍(今日の治療薬2011、医薬品識別表、お薬手帳など)・筆記具はすべて揃っていた
- ・救援物資として送られてきた医薬品をなるべく消費するため、在庫していない薬が処方された場合は、代替薬を医師に直接提案。その場で変更の許可頂いた。
- ・代用できない薬や「一包化」などは、福島県薬剤師会営薬局に処方せんをFAXして用意してもらい、翌日避難所のお薬相談コーナーに薬が届く→患者さんが取りに来られる。
- ・お薬手帳は、ほぼ全員の患者さんが持参された。(既に配布済みのため)
- ・5/28の調剤件数は23件でした
- ・災害処方箋の調剤報酬請求：福島県営薬局が、救援物資医薬品を除いた薬剤費のみ請求。
基本料・技術料などは一切請求しない

③ 衛生管理について

- ・トイレと更衣室洗面所の石鹸・擦り込み消毒液・ペーパータオルの補充を1日2回行う。
1～2F合わせて計6か所ある

以上はすべて手順書があるので、基本的にそれに従い業務を行う。

- ・「引継ぎノート」に翌日の担当者への申し送り事項、薬を取りに来る方の記録などを記載
- ・その日の活動内容を「活動報告書」に記入し県薬に提出

○私が受けた主な相談内容

- ・感冒症状（喉痛・咳・鼻水）
- ・歯痛、頭痛、生理痛、腰・肩等の痛み
- ・虫さされ、水虫、怪我
- ・周りがうるさくて眠れない
- ・食欲不振、便秘、胃もたれ

○**現地到着後**、まずは先に活動に入られている先生方から業務内容などを教わり、OTCの種類把握、期限チェック、年齢による使用制限の確認などを行いました。医療用医薬品は在庫リスト一覧があり、確認する事ができました。どの業務にしても、今までの経験が生き、自信を持って活動にあたる事ができました。

○**避難所**はやはり高齢者が多い印象でした。相談に来られず一人で健康問題など抱えておられる方もいらっしゃるのではと思います、避難所を回って挨拶・声掛けを積極的に行いました。（自分のスペースで休まれている方を除いて）数時間後、声掛けした数人が相談コーナーに来て下さいました。話を伺うと、便秘、不眠など「仕方のない事」と自己判断され我慢していた事が分かりました。特に高齢の方は、わざわざ相談に行く事が億劫になっているのかなと感じました。

○**他県薬剤師**の他、毎日入れ替わりで1～2名ほど福島県薬の方も活動に入られていました。「何度もこの避難所で活動している」というベテランの方もおられれば、「今日初参加」という方もおられました。このように人の入れ替わりがあっても先に活動に入られている方々が親切に教えてくださったお陰で、私たちは混乱なく活動する事ができました。

今回出会った多くの人との縁を大切に、また是非活動に参加したいと思っています。

○参考になったサイト

全国薬剤師・在宅療養支援連絡会・薬剤師情報共有ポータルサイト J-HOP
(<http://www.j-hop.jp/>)